予 算 決 算 委 員 会 会 議 録

招 集

平成30年7月24日(火) 午前10時 議場

出席委員(26名)

(委員長) 三 鴨 秀 文	(副委員長) 国 頭 靖		
安 達 卓 是	石 橋 佳 枝	伊 藤 ひろえ	稲 田 清
今 城 雅 子	岩 崎 康 朗	遠 藤 通	岡 田 啓 介
岡 村 英 治	奥 岩 浩 基	尾 沢 三 夫	門 脇 一 男
田 村 謙 介	土 光 均	戸 田 隆 次	中 田 利 幸
西 川 章 三	前 原 茂	又 野 史 朗	矢 倉 強
安 田 篤	矢 田 貝 香 織	山 川 智 帆	渡 辺 穰 爾

欠席委員(0名)

説明のため出席した者

伊澤副市長

【総務部】辻部長 武田防災安全監

[財政課] 下関課長 長谷川総括主計員

【総合政策部】大江部長

【市民生活部】朝妻部長

【福祉保健部】斉下部長

【経済部】大塚部長

【都市整備部】錦織部長

【下水道部】矢木部長

【淀江支所】高橋支所長

【教育委員会】浦林教育長 松下事務局長

【水道局】細川局長

出席した事務局職員

先灘局長 長谷川次長 足立係長 柄川係長 安東主任

傍聴者

一般 1人

審査事件

議案第58号 専決処分について(平成30年度米子市住宅資金貸付事業特別会計補正予算(補正第1回))

議案第59号 専決処分について(平成30年度米子市駐車場事業特別会計補正予算(補正第1回))

議案第66号 平成30年度米子市一般会計補正予算(補正第1回)

~~~~~

午前9時58分 開会

○三鴨委員長 ただいまから、予算決算委員会を開会いたします。

本日は、当委員会に付託されました議案第58号、第59号、及び第66号、以上3件

について、総括質問を行っていただきます。

委員は質問席において、当局は自席にて起立の上、発言をお願いいたします。

それでは初めに、会派政英会、戸田委員。

○戸田委員 政英会の戸田でございます。本予算委員会に当たりまして、大要2点を質問してまいりたいと思います。明快なる答弁をいただきますように、よろしくお願いいたします。

まず初めに、議案第59号米子市駐車場事業特別会計補正予算について、質問してまいりたいと思います。繰上充用金5億6,000万円を計上しておられるわけですが、これを専決処分しておられます。これらの状態がずっと常態化しておりますけれども、補正対応の方針について、まず伺っておきたいと思います。

○三鴨委員長 錦織都市整備部長。

○錦織都市整備部長 繰上充用金5億6,000万円の補正対応についてでございます。各会計年度における歳出につきましては、その年度の歳入をもって充てなければならないとされているところでございますが、その年度の歳入が不足する場合、翌年度の歳入を繰り上げてこれに充てることができるという、繰上充用の制度が定められております。繰上充用5億6,000万につきましては、過去からの累積いたしました赤字額の残額というところでございまして、平成29年度の単年度では黒字化しているという状況でございますので、引き続き単年度収支の黒字化を図りつつ、累積赤字の解消に向けた道筋を検討していきたいと考えております。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 私は、改めて今の歳出とか、そういう繰上充用の制度の内容を伺っておるわけではないですよ。これは毎年同じような条件下で話をされておるわけですが、なぜ平成30年度の補正予算で繰上充用していかなければならないのかという、その対応をどのように検証されたのかって、私、伺っておるんですよ。改めてその辺を伺っておきたいと思います。

○三鴨委員長 錦織都市整備部長。

○錦織都市整備部長 お答えのほうがお返しという形にはなりますけれども、繰上充用金5億6,000万円については、過去からの累積した赤字額の残額ということでございます。それについては、単年度の収支も黒字化されておりますので、こういったところを黒字化を図っていきまして、累積赤字の解消に向けて道筋をつけていきたいという形で考えております。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 単年度収支は黒字だということですが、単年度の収支決算の内容をちょっと伺っておきたいと思います。

○三鴨委員長 錦織都市整備部長。

○錦織都市整備部長 平成29年度の単年度収支の決算状況についてでございますが、歳入につきましては、5,954万9,774円でございます。歳出につきましては、5,717万2,994円となっております。歳入歳出の差し引きが、237万6,780円の黒字ということになっております。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 収支決算では約240万円の黒字が出たということですが、しかしながら、今の累積が5億6,000万円ということですが、その辺のところを十分

に検討していかなきゃなりませんけれども、今後、この経営状況についてはどのように検証されているのか、その辺のところを伺っておきたいと思います。

○三鴨委員長 錦織都市整備部長。

○錦織都市整備部長 収支状況についてでございますけれども、駅前地下駐車場建設時の起債償還がおおむね終了したというところでございます。また、万能町の駐車場の利用が順調な状況にございますことから、単年度収支は黒字となってきたというところでございます。累積赤字の解消に至っていないという状況ではございますけれども、そういった黒字となってきたというところでございます。引き続き、駐車場、駐輪場の利用促進を図りまして、また、経費の見直しなどを行うなど、単年度の黒字を維持しつつ累積赤字の縮減を図ってまいりたいと考えております。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 今の累積が約5億6,000万円あって、その赤字解消をしていきたいということでございますが、しかしながら、単年度収支というところと約240万ぐらいですか、黒字が。これを5億6,000万を赤字解消、損益を解消するということになれば、約25年以上かかりますよ。その辺の、現段階でこの繰上充用という手法が常態化している中で、本当にこのままでいいのかなど。その辺のところを具体的にどのように検討しておられるのか、庁内はどういうふうに検討されるんですか。総務部長、どうですか。

○三鴨委員長 辻総務部長。

○辻総務部長 駐車場特会の赤字がだんだん大きくなっている時代が平成十何年度でしたか、ぐらいにありまして、その時代は起債の償還額が非常に大きくて、それが駐車場特会の赤字を膨らませる一番の要因となっておりました。それにつきまして、一定一般会計からも負担をしていくべきだということがありまして、元利償還金の8割相当というのを一般会計から繰り出してきております。今、その起債の償還そのものがほとんどなくなってきた関係で、一般会計から財源を投入するといったようなことが、金額的には非常に小さくなってきているところでございます。ただ、この駐車場特会、まず、経営努力を精いっぱいやってもらわなくてはならないというのが一番にはございますけれども、今、戸田委員おっしゃいますように、そのやり方だけであれば、200万の黒字であれば20何年もかかるということも確かでございますので、一般会計からの財源的な支援といいますか、そういったことも一方では改めて考えなくてはならない時期が来ているというふうに考えております。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 今、話がありましたけれども、また、その内容については触れますけれども、今の単年度収支が240万円という形なんですけれども、正直言って25年間もずっとかかってくると。そういうふうな状況をずっと推移を見守っていくのかどうなるかはわかりませんが、駐車場の特別会計についても、機械を取って平面駐車にしていくんだという、いろんな手法をとってきたわけですけど、なかなか抜本改革にはなっておらないという形なんですけども。そこで、ずっとこの繰上充用の手法を用いた期間っていうのは、今まで何年間続いているんですか、そこをまず伺っておきたいと思います。

○三鴨委員長 辻総務部長。

○辻総務部長 駐車場特会の繰上充用の手法を使ったのはいつからかというお尋ねであったと思います。私が今持っております資料では平成11年度に、まず1,300万の赤字決算ということが生じているようでございますので、そこから1,300万でス

タートいたしまして、今、5億数千万までになってきたといった実態がございます。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 私もちよっと調べましたら、20年間ぐらい繰上充用の手法をずっととってきておられると。これが果たして一般会計上適切かどうか。私はその辺のところに疑義が生じるわけですけれども。例えば、先ほど総務部長が触れましたけれども、やっぱり一般会計から繰り出して特会を改善するというような手法をとる時期に来ておるのではないかなと、私は今思うんですけれども。副市長、その辺をどのように考えられますか。

○三鴨委員長 伊澤副市長

○伊澤副市長 駐車場特会の問題につきましては、昨年度の決算の際にも御指摘をいただいたところであります。担当部長、あるいは総務部長のほうからもお答えいたしましたとおりでございますが、今、議員のほうからもお話いただきましたが、駅前の地下駐車場、現在の立体式の機械式が老朽化のために運用が非常に難しくなっておりますが、これを平面化することで実質的な駐車台数を回復させると。ももとの200台規模には戻りませんが、100台の規模には復元するといったことで、まず、経営の改善を図りたいということ。そういったようなものの将来推計といいたしめようか、状況をどの程度回復するのかということを見きわめた上で、先ほど総務部長も御答弁申し上げましたが、一般会計からの財源投入といったことも考えていきたいと、このように考えております。改めてですが、黒字になったのは昨年度の決算からでありまして、やっと黒字になったということでありまして。額が小さいのでまだ先が見通せないという状況であります。平面化で少し先を見て今後の対応を考えたいと、このように考えております。以上でございます。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 私が思いますのは、過去19年間も繰上充用という手法を適用させてきた。今後、今の5億6,000万の累損がありますよと。収支決算でようやく240万の利益が出てきたと。累損を解消するには約25年間、26年間かかってくると。トータル的に見れば、四十何年間も繰上充用の手法を用いていくのが、本当に会計上適切かどうかという疑義が私は出てくると思うんです。きょうは市長が出てませんが、市長が出ておれば、会計士の視野でその辺の御意見をいただきましたかったんですけれども。やはり私は、今、ある程度の分岐点に来ているんじゃないかと。やっぱり先ほども言いましたように、特別会計のあり方と一般会計のあり方ということは、これからは私は見きわめていかなければならないというふうに思いますよ。そういうふうな観点からいけば、繰上充用しとけばいいわいと、そういうふうな事務の常態化というのは、私は適切ではないというふうに、そういうふうな事業の中身を十分に吟味した上でやらなければならない。公共下水の特別会計等もやります。いろんな特会があるわけですが、一般会計と特会と、その辺の分け目というのはどこが適切なのかどうなのか。その辺のところを十分に内部で検討すべきと思いますが、改めてもう一回、見解を伺っておきたいと思います。

○三鴨委員長 伊澤副市長

○伊澤副市長 議員の御指摘、重く受け止めたいと思います。おっしゃるとおり繰上充用という姿が本来の姿でないということは、これはもう多くの議論がないところだと思います。赤字というものが長らく続くということは本来の姿ではないと私も思います。一方でそういった特別会計の趣旨からいけば、会計を分離して収支を明確にするということ、これも多くの議論がないところでありまして、これの両方のバランスをどこでとることだと思っております。おっしゃるとおり現在の黒字幅であれば、さらに二十数年かかると、

これを想定するのがよしと、私もそうは思いません。したがって、先ほど申し上げましたが、平面化でどこまで収支が改善するのか。その結果、どの程度の赤字決算の継続が見込まれるのか。そこに一般財源を投入するとすれば、どの程度の規模を投入すれば何年程度で解消されるのかと、こういったシミュレーションを平面化後にはなりますけれどもやってみないと、このように考えております。以上であります。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 決算の時期で、いろんな議員さんの方から、こういう特会についてのあり方についてはどうなのかという質問がずっと出ております。私も十分に検討した中で、これから繰上充用をまだ適用させるといことになると40年間、45年間、その事務手法をとっていくというのは、本当にそれがどうなのかと。今、副市長さんもおっしゃられたように、繰上充用という手法は、本当に回避すべき手法だと私は思っております。そういう中で、5億6,000万というような巨費ですので、これからどうあるべきかということとはまた集中的に議論はせねばなりません、やはり踏みとどまって、一般会計から繰り出して、この辺の改善をするというような手法も選択肢の一つであろうというふうに私は思いますので、その辺のところを十分に今後検討していただきたいと、強く要望しておきたいというふうに思います。

次に、議案第66号一般会計補正予算についての関連質問をしていきたいと思っております。まず初めに、今の無線放送施設の整備事業について伺っておきたいと思っております。補正の理由として、事業の早期整備の要望により、防衛省の補助金が増額配分されたため補正したというふうに明文化されております。では、当初予算編成時のときには、その国庫補助金の配分見込みとか、防衛省の示唆がなかったのか、その辺のところをまず伺っておきたいと思っております。

○三鴨委員長 武田防災安全監。

○武田防災安全監 防災行政無線における無線放送整備事業についてでございますが、平成29年度に防衛省に対しまして、事業早期完了のための追加要望を行いました。これによりまして補正予算も組み、繰り越しによる事業を予定したところですが、この採択の内示が見送られ、今年度の採択を目指し強力に要望活動を行ったその結果、本年4月に国から採択の内示があったことから、改めて平成30年度予算で予算措置しようとするものでございます。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 平成29年度の当初予算で見込みをしとったところに見送られたと。それで、補正対応で国のほうからつけた。強力に要望したということですが、どのような要望活動をされたんですか。

○三鴨委員長 武田防災安全監。

○武田防災安全監 広島市の防衛局のほうに、防災安全課の職員はもちろん、市長にも行っていただきまして、要望活動をしたところでございます。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 その要望活動については、また触れますけれども。本事業は平成31年度を完了を目途として計画をしておるというふうに仄聞をしておりますけれども、今の整備計画の中で何か所で、今後どのような計画になっておるのか、その辺の内容を伺っておきたいと思っております。

○三鴨委員長 武田防災安全監。

○武田防災安全監 この事業の整備計画ですけれど、もともとは平成32年度を完了としていたんですけれど、事業進捗を図るために防衛のほうとかに予算要望いたしまして、今の時点での計画ですと、31年度までに完了したいというふうに考えているところでございます。本年度につきましては、防衛の補助エリアにつきましては59機、補助外エリアにつきましては25機の合計84機を予定しているところでございます。また来年度につきましては、今のところの予定ですと、防衛補助エリアについては25機、補助外エリアにつきましては57機、合計82機を予定しているところでございます。また事業費につきましては、平成30年度補助エリアにつきましては2億9,840万円、補助外エリアにつきましては1億3,416万4,000円、合計4億3,780万円。平成31年度、来年度につきましては、補助エリアにつきましては、1億5,339万4,000円、補助外エリアにつきましては2億8,703万6,000円、合計4億4,043万円を計画しているところでございます。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 今、この説明をいただきましたけど、このたびの補正の内容については、防衛省の民生安定化事業を補助いただいておりますね、その内容が。約7割が防衛省の補助だというふうに見聞するわけですが、先ほど説明がありましたけれども、補助対象エリアと補助対象外エリアというふうに2つに分けておられるんですけれども、補助対象外エリアの財源とはどういうふうに見込んでおられるんですか、その辺を伺っておきたいと思っております。

○三鴨委員長 武田防災安全監。

○武田防災安全監 補助対象エリアの財源ということでございますが、補助対象外エリアにつきましては、緊急防災減災事業債を使用する予定としております。地方債の充当率は100%、交付税措置は70%というふうに認識をしております。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 防衛省の民生安定化事業っていうのは、どこら辺までのエリアを想定されておられるんですか、その辺をまず、伺っておきたいと思っております。

○三鴨委員長 武田防災安全監。

○武田防災安全監 済みません、今、ちょっと詳細なあれは持ってないんですけれど、防衛の対象エリアにつきましては、30年度事業の予定地につきましては、彦名、河崎、住吉、加茂、義方、就将の一部、啓成の一部、福米西の一部が補助対象エリアとなる予定でございまして、来年度につきましては、福米西、福米東、福生西、福生東が補助対象エリアになるという計画をしております。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 今、説明を受けましたけれども、防衛省の民生安定化事業の補助率が約7割ですね。答弁をいただきました緊急防災の減災事業の補助率は70%ですか。どちらが有利なんですか、その辺のところをちょっと伺っておきたいと思っております。

○三鴨委員長 辻総務部長。

○辻総務部長 補助対象外エリアにつきましては、交付税の基準財政需要額の算入が7割あるということで、補助金の形で入ってくるものではないですけれども、交付税がその分多く来るといような仕組みになっております。ですけれど、補助金をもらう補助対象内エリアであれば、補助金をもらった残りっていうのは、例えば補助金を7割もらえば起債を充てるのは3割だけ。3割の中の70%が交付税で来れば、残る部分の一般財源という

のは非常に小さくなります。ですので、やはり交付金はしっかりもらった上で、残りに起債を充てるといふほうが財源的には有利というふうに考えております。ただし、緊急防災減災事業債との合併特例債以上に有利な起債でございまして、100%全部充当してそのうち70%が交付税に算入されるということです、これもやはり非常に有利な起債には間違いございません。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 今、詳細な説明があったんですが、端的に言えば、本市の一般財源の充当率、持ち出しですね、それはどちらが有利なんでしょうか。

○三鴨委員長 辻総務部長。

○辻総務部長 補助金を充てて、残りに起債を充てたほうが有利ということになります。よろしいでしょうか。

(「で、どっちが有利なの。どっちの負担が少ないの。」と戸田委員)

○辻総務部長 防衛の補助金はもらって、こっちの負担はないですので、補助金をもらったほうが有利です。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 なぜ、私がそうこだわるかといいますと、いつも定例会でも市長にも申し上げてますように、やはり緊急減災の事業の負債もある、しかし、防衛省の補助金が7割ということで、防衛省の補助金のほうが私は率はいいんだと思うんですね。逆に言えば、本市の一般財源の負担額っていうのは少なくなると、というのが、私は本来のあり方だと。だから、私はそうなれば、最後の質問をしますけれども、やはり民生安定化事業もいろいろな枠組みもあるわけですが、今、市長が防衛省にも出向いてこの事業、補助事業もいただいて来たというような説明があったわけですが、これからは民生安定化事業のこの事業に対する補助外エリアについての防衛省の補助金も獲得していくというような姿勢が、私はなくてはならないと思うんですけど、副市長、その辺はどうなんでしょうか。

○三鴨委員長 伊澤副市長

○伊澤副市長 防衛省に対する補助金要望の取り組みについてお答えいたします。議員、御指摘のとおりでありまして、これは、この議場、あるいは委員会の場でも、たび重ねて複数の委員さんからそういった御指摘もありましたが、この、今回補正をお願いしております防災無線に限らず、この防衛の予算を獲得すべく要望活動をより一層精力的にやってまいりたいと、このように考えております。先ほど、担当のほうからも御説明申し上げましたが、今年の2月に広島防衛局のほうに市長は初めて行ってまいりました。当初は、私がまず露払いに行つて来ますということを予定していたんですけど、市長が自分が行くからということで、みずから足を運んで、大変いい機会が持てたと思っております。もちろん、私も市長以上に汗をかきたいと思っております。何よりもやはり地域、地元の実情、要望を伝えるということは、防衛省に限りませんが、これはとても大事なことであります。防衛の予算は非常に有利な部分がございますので、地域の実情・要望の声をしっかり届けるべく市長も先頭に立っていただいて、そして私も一緒に汗をかきたいと、このように考えております。以上であります。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 先の集中豪雨で被災もあったようですし、市民の身体、生命、財産を守るための本事業は大切な重要な事業だと私も思っております。平成32年度までの事業が進捗状況が早く平成31年度で事業完了するというのは、私は了としますけれども、やはり、

その裏では、いわゆる財源もきちっと担保していかなければならないというのが、私たち議会と当局の使命であろうというふうに私は思っております。そうした中で、やはり本市の一般財源の負担を軽減化を図るためにも、いろんな多角的見地から今の各省庁の補助金のメニューを選択して、有利な補助金を獲得していくのが本来私たちに課せられた義務であるというふうに、私は認識しておりますので、その辺のところを当局も十分に検証させていただきたいというふうに思います。

次に、今の橋梁と市営住宅の長寿命化事業について伺っていききたいと思います。両事業を一括して質問してまいりたいと思いますが、補正理由については、国からの交付金の配分に応じて事業の進捗を図るとしてありますと、先ほども無線の事業でも指摘しましたけれども、当初予算編成時のときに、この社会資本総合整備交付金が該当したから、この事業を補正予算に上げたということの補正理由なんですけど、社会資本総合交付金の当初予算編成時のときは、そういう見込みがなかったんですか。その辺のところをまず伺ってきたいと思います。

○三鴨委員長 錦織都市整備部長。

○錦織都市整備部長 橋梁補修事業及び市営住宅長寿命化改善事業の補正理由についてでございます。橋梁補修事業につきましては、平成29年度予算額1億6,130万円をもとにいたしまして、平成30年度当初予算額は1億8,000万ということでしておりますけれども、国からの当該事業についての予算額を上回ります交付金、こういったものを配分していただきましたので、橋梁補修事業の進捗を図るために、今回補正を行うものでございます。それと市営住宅長寿命化改善事業につきましては、事業実施を前提として実施設計が終了している河崎住宅49R1棟につきまして、長寿命化によりまして改善、供給、こういったところが必要と判断していたところでございますけれども、国への要望、こういったところが認められましたことから、今回補正を行うというものでございます。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 橋梁修繕については理解はしますが、橋梁修繕はその長寿命化リストに基づいて発注かけていくんですか。その辺をまず伺ってきたいと思います。

○三鴨委員長 錦織都市整備部長。

○錦織都市整備部長 橋梁補修事業につきましては、橋梁長寿命化計画、こういったものに基づいて、計画的にやっていくというところでございます。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 緊急度とか老朽化度について、その辺のところを十分に検討した上で、今後、発注体系をかけていくんですか。その辺の検証はできておりますか。

○三鴨委員長 錦織都市整備部長。

○錦織都市整備部長 委員が言われますとおり、緊急度とか、そういう老朽化度、そういったところを勘案しまして、計画的にやっているというところでございます。それで今年度ですけれども、その橋梁長寿命化計画については、ちょっと見直しというところも考えておりますので、そういったところで検討の上、やっていくというところでございます。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 なぜ私がそれを話すかといいますと、今の橋梁の長寿命化計画についても、本当に実態と則しておるかというようなところも指摘しておるんですけども、改めて今の検討していきながら実施していくんだというふうに回答があったんですけど、どのような視点で今の検討をされておられますか。

○三鴨委員長 錦織都市整備部長。

○錦織都市整備部長 今回の橋梁長寿命化計画の見直しにつきましては、今年度、システムの予算を上げさせていただいております。今現在、そういったシステムの構築、こういったところを進めておりますので、それが構築できたら、先ほど申し上げましたとおり、緊急度とか老朽度、そういったところを勘案しながら計画を策定していくという状況でございます。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 その長寿命化計画を十分に検討していかなければならんですが。ちょっと質問を変えますけれども、市営住宅の長寿命化計画はいつ策定されたんですか。

○三鴨委員長 錦織都市整備部長。

○錦織都市整備部長 市営住宅長寿命化計画につきましては、平成24年3月に策定しております。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 平成24年に策定されて、実施設計はいつされたんですか。

○三鴨委員長 錦織都市整備部長。

○錦織都市整備部長 河崎住宅の49R1棟については、平成29年度に実施設計を実施しております。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 私もこの市営住宅の河崎住宅を見に行きました。で、実施設計の段階で十分に庁内で検討されましたか。平成24年度に長寿命化計画をつくられて、それを踏襲して、ただ、その踏襲した事務に基づいて執行するというような考え方なんですか。実施設計の段階で十分に多角的に検討されたんですか。その検証をされたんですか。その中身を十分に伺っておきたい。

○三鴨委員長 錦織都市整備部長。

○錦織都市整備部長 長寿命化改善事業につきましては、新耐震基準を満たす安全性を備えたものですか、効率的かつ合理的な改善によって一定の基準を確保するものにつきまして、長期のストックとして改善手法を施すものでございますけれども、米子市公共施設等総合管理計画のほうでは公共建築物の統廃合の推進、施設総量の抑制を図るため、建築後35年以上のものについては、大規模改修による長寿命化を図るところでございます。平成24年3月に策定しました米子市市営住宅長寿命化計画の中で、こういった事業手法の判定を行っております。河崎住宅につきましては長寿命化改善事業と判定しております。事業化を図ってきているというところでございます。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 私が聞きたいのは、本当に長寿命化計画を平成24年度に策定されて、実施設計29年度、昨年度ですね、5年経過した中で、公共施設の総合管理計画の中のそういうふうな話をされたんですけど、しかしながら、部長さん、考えてみてくださいよ。5年も前に策定された内容を基本としながら、しかしながら、実施設計に当たっては、時代の背景なり市民のニーズを十分に配慮した中で、事務を進めていくのはあなたの仕事ではないんですか、私はそう思うんですよ。例えば、私も家をシロアリが食って改修しようとしておるんですけど、それについては、ここも便利が悪いから利便性を向上しようとか、バリアフリーにしようとか、手すりをつけようとか、いろんな観点が出てきます。この実施設計の中身で、本当にこれで3億4,000万、債務負担行為を合わせて3億4,000

万計上されておられますが、本当にこれ、費用対効果が出てきますか。市民の理解を得られるんですかね。ただ、躯体構造だけを残して、中身をリフォームすればいいわというような内容ですよ。それで市民の方に受け入れられるんでしょうか。4階まで上がって、階段を、私、階段を歩きましたけど、すれ違えないような狭い階段ですよ。そういうふうなところを、本当に部長さんがそういう実施設計を上げる段階で現地を見られて、この内容で本当に適切かどうか。市民が今求めているような市営住宅なのかどうか。そういうような多角的な見地で、庁内で十分に検討された結果なんですか。老人の方が4階まで上がられるんでしょうか。副市長さん、どうですか、その辺のところ。

○三鴨委員長 伊澤副市長

○伊澤副市長 庁内の検討状況についてのご質問でございます。実は私も行って見ました、現場に。これは議員と同じような実は問題意識を持っておりまして、24年にその長寿命化計画をつくったということですが、これは議場のほうでも御質問があって、市長のほうからもお答えしたことがございますが、今後、いわゆる市営住宅どうしていくのかと。空き家対策といましようか、民間空き家の問題も一方ではございます。民間でどんどん空き家が出ている一方で、市営住宅を同じストックでどんどん長寿命化していくのかと。もちろん総量の一応の見込みも24年の3月のときに立ててはいるようですけど、それをこのままそれをやっていくのかどうかというのは、これはもう一回再検証しなきゃいけないという大きな問題意識がございます。したがって、この市営住宅のストックマネジメントとでもいまいましようか、全体の総量、そしてそれを従来型の市営住宅、そして民間住宅の活用の可能性、そして市営住宅として供給するものについても、今、議員が御指摘のように、大規模改修で長寿命化で対応するものと改築で対応するもの、こういった仕分けを一度し直すべきじゃないかと、このように実は考えておりました。これは、30年度当初予算の編成時点で実はそのような問題意識を、私も、そして当然、市長も持っておりまして、その関係で少し足踏みをしようというようなことも考えたところでもあります。ただ、結論から申し上げますと、この49R1棟というものは、先ほど、都市整備部長もお答えしましたが、既に国庫補助金をいただいて実施設計を行っているということ。それから、隣に47R1棟という、今年完成して間もなく、もう完成して入ったのかどうか、近くだと思いますが、完成した、少しさらに区画が狭いんですけど、部屋の、居室がですね、それもございます。これの実情等も含めてしっかり考えなきゃいけないと。今回の予算を計上するに当たって、国から補助金がきたからということばかりでなくて、本当にやるのかどうかということは、しっかり、私、この目でやっぱり見とかなないけんというふうに思いまして、現地を訪ねまして見ました。結論から申し上げますと、この49R1棟については、やらしていただきたいと、このように考えております。理由は幾つかありますが、逆に言いますと、それ以降ずっとあそこは御案内のとおり4階の中層住宅がずっと並んでいるんですけど、これをそのまま24年の3月につくった計画どおり大規模改修していくのはちょっと考え直そうかなあというふうに考えておりますが。その理由は、一つは、現在、今年完成いたします47R1についても、24戸のうち15戸の方がもともとのお住まいで、この方はもとにお戻りになるということでもあります。最大の理由は、エレベーターをつけると工費が大体、全体事業費が約1億円ちょっとかかります。それだけであればいいんですけど、それが実は家賃にはね返るという問題があって、これは、家賃いろんな所得階層がありますので一概には言えないんですけど、一番安い家賃階層でも1.6倍ぐらいに、実は、家賃をルールで計算するようになります。そういったようなもろもろのことを考

えて、かつもちろん老人の方のバリアフリーということも考えたわけでありますけども、そういったことをさまざま考えた上で、今回、補正をお願いしている49R1棟についてはお願いしたいと、このように考えた、そういった結論を市長とも相談して出したところであります。以上であります。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 私は、副市長とはちょっと意見がかみ合わない。やはり実施設計国庫補助金をもらったからそのままやらしてくださいというだけでは、私は理由にはならないと。やはり、市民ニーズに、公共サービスですから、市民が求めているようなニーズにできるだけ的確に応えられるような対応を私はすべきだと思っているんですよね。副市長さんも行かれた、私も歩きました。とてもじゃないですが、4階までこの真夏に歩いて上がるってなかなか大変困難だと思います。そうした中で、バリアフリー化も何もない、私たちのとこだけバリアフリー化しとる、そういうふうなところは私はおかしいと思うんですよ、行政のあり方。で、7棟あって、1棟済んだ。1棟は実施設計が済んだからやらしてください。あと5棟はどうするかって、私、都市整備部長に聞き取りのときに指摘しました。今後、十分に検討させる。いや、そうではなくて、今回の実施設計をやられたときに、なぜ改めて違った視点で検証がなされなかったのかと。私は、そこを立ち止まるべきだったではないかって、都市整備部長に言ったんです。私は、それが本来のあり方だったと思うんですよ。だから、実施設計ができ上がっても実施設計は十分に変更はできるんですよね、経験上、何ぼでも実施設計変更したことあるんです。なぜ、それができなかったっていうと、漫然化として、長寿命化計画があるから計画にのっとって事務を進めればよいというような体制が私はあると思うんですよ、当局の中に。そうではなくて、その3億4,000万も巨費を投じていく事業については、真摯に改めて考えていくというような姿勢が私はないと思っておるんです、あなた方に。そういうようなところを私は十分に指摘しておきたいと思います。この問題については、別に都市経済常任委員会がありますので、そこに十分な資料を提供していただいて、修正とかそういうふうな思い切った本当の判断が私はあるといいんだというふうに思っております。十分に私は議論をしていただきたいというふうに思います、この問題は。質問は以上で終わりたいと思います。

次に、ブロック塀の緊急対策事業について、質問してまいりたいと思います。この補正理由については、大阪の地震の被災状況を踏まえた内容で、今の各施設のブロック塀の耐震状況なり、そういう必要なものから撤去並びに回収するための補正をするという内容でございます。まず伺いますけれども、この事業の予算編成に当たって、国から通知が来たのか、本市の独断でやらなければならないというふうに判断したのか、その辺のところを伺っておきたいと思っております。

○三鴨委員長 辻総務部長。

○辻総務部長 ブロック塀の緊急対策事業の判断についてでございます。本市におきますブロック塀の緊急点検は、点検に係る国からの通知よりも前に、大阪北部地震の被災状況を踏まえて本市の自主的な判断で実施したものでございます。ブロック塀の撤去や改修につきましても、学校や保育園等、特に早急な対策が必要な施設につきまして、7月補正により対応するよう判断したものでございます。また、それに先立ちまして、一部予備費により着手した部分もでございます。以上です。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 まあ、私もこの国の通知よりも市長が判断をして、市民生活の安心・安全確

保の観点からやられるということは、すばらしいことだというふうに私も協賛します。しかしながら、一方、裏を返せば、財源はどうしたのかなあと。国の財源なり数値があれば、交付税措置というものがあるのかどうなのかというのも、一つの見きわめも必要であったのかなあというふうに思いますが、その辺のところはどのように伺っていますか。

○三鴨委員長 辻総務部長。

○辻総務部長 財源についてでございます。このたびの予算措置は、学校施設への国の補助について、本年度の追加配分というのはなく、次年度の要望も終了していることを踏まえまして、やはりここは子どもたちの安全・安心を早急に確保する必要があるとの判断から、速やかに安全対策を行うことを優先させたものでございまして、国からの補助金等は特に今のところ見込めてはおりません。なお、ブロック塀の対策に要した経費といいますのは、本市にとりましては今年度の特殊財政需要に相当するというふうに考えておりました。国に対して、特別交付税の交付について要望に努めてまいりたいと考えております。

○三鴨委員長 戸田委員。

○戸田委員 大変すばらしいことをやられたので、私も先ほど言いましたように、すごく大変喜ばしいことだと思いますけれども、やはり、裏を返せば財源確保も私たちの大きな使命でございますので、今後、その辺の国の国策も目まぐるしく変わりますけれども、今の財源確保について、鋭意努力されますようにひとつ要望しておきたいと思っております。以上で質問を終わります。ありがとうございました。

○三鴨委員長 戸田委員、先ほど求められた資料の件ですけれども、正副委員長並びに都市経済分科会長と当局と相談をしながら資料を整えてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

○戸田委員 はい、よろしくお願いたします。ありがとうございました。

○三鴨委員長 次に、一院クラブ、遠藤委員。

[遠藤委員質問席へ]

○遠藤委員 委員長、議事進行を最初にやらせてもらいたい。

○三鴨委員長 はい、理由は。

○遠藤委員 理由は、市長がこの席にお見えにならない。これはどういう理由なんですか。例えば、議会が予算委員会とか各常任委員会に市長の出席はしなくてもいいと、こういうような話でもあってこういう結果になっておるのか、それとも、市長自身が議会よりも優先すべき公用があって、そっちのほうに出向くっていうことになったか、どういうことですか。

○三鴨委員長 これにつきましては、世話人会で決定したことでございまして、9月の決算委員会の全体会総括質問、そして3月の当初予算を審議する総括質問、このときは市長は出席をされるということでございますけれども、平常時の常任委員会は庁内待機ということで、世話人会で決定しております。

(「異議が。」と遠藤委員)

○三鴨委員長 はい、理由は。

○遠藤委員 僕は議長選挙のときに正副議長は、議会基本条例を守りますと、実施いたしますと、そういう中で開かれた市議会を目指しますと、こう宣誓されたんじゃないですか。世話人会でどういう協議がされたか知らないけども、世話人会の後に議長・副議長選挙は行われたわけです。どっちが優先すべきかなのかは、議長選挙なり副議長選挙を優先すべきじゃないですか。二元代表制の議会でございます、昨日もやり取りがありました。本当

に二代表制というものの意味を、議長、副議長を含めて、予算委員長を含めて理解されているんですか。市長を外しておいて、二代表制が成り立ちますか。私はそういうことはもう少し検討してもらわないかと思うな。しかも、世話人会で決まりました。私は、全然、その報告を受けていません。一人の議員は報告しなくてもいいんですか。そういう市議会を運営するんですか。どこが開かれた市議会ですか。開かれた市議会とは、何を指してるんですか。この苦言を私は申し上げておきたい。したがって、今後の各常任委員会を含めて二代表制に基づく市議会運営、開かれた市議会運営、これを目指してもらいたいということの検討を予算委員長に申し上げておきますから、正副議長と十分検討してください。

○三鴨委員長 じゃあ、質問をお願いいたします。

○遠藤委員 いいですね、今言ったことは。

○三鴨委員長 繰り返しの答弁になりますけど、世話人会で決定したことでございまして、市長は庁内に待機をされております。市長の答弁が必要な場合、そういった政策的な答弁が必要な場合は、いつでもこの場にお越しをいただいて、答弁をいただくことは可能でございますので、そのように、必要であれば委員長に申し出ていただきたいと思います、事前に。

（「議事進行。」と遠藤委員）

○三鴨委員長 いえ、もう答弁をしましたので、質問をお願いします。

（「議事進行。議事進行は何よりも優先する課題でしょ。常識でしょ、そんなことは。」と遠藤委員）

○三鴨委員長 遠藤委員、理由は。

○遠藤委員 事前に申し出てくださって言って、いつ申し出るの。世話人会の報告を私は受けてないんだよ、いつ申し出るの。世話人会というのは、法律で決まったことじゃないでしょう、これ。議長・副議長選挙は堂々とした規則に基づいた行為ですよ、これは。どっちが優先すべきですか。今ここで議論しても、わからない人にはどうしようもないけども、よく勉強してください。それから議場にも正副議長おるわけだから、そういうことの観点をきちんとした上で、議会運営というものをやってもらいたい。あんまりのぼせとっていいけんけん、次行きます。委員長。

○三鴨委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 この補正予算の土木費、市営住宅長寿命化改善事業について、先ほど戸田議員のほうからかなり詳しく掘り下げられましたけども、私のほうからも角度を変えてお聞きいたします。まず、この補正予算に計上された49R1、24戸の事業計画の検討経過。それから、なぜ49R1というのが優先順位に決まったのか、これについてお答えをいただきます。

○三鴨委員長 錦織都市整備部長

○錦織都市整備部長 市営住宅の長寿命化改善事業の経緯ということでございます。これは、戸田議員のほうにもお答えしましたがけれども、平成24年3月に策定いたしました米子市営住宅長寿命化計画の中で事業手法の判定を行いまして、河崎住宅の中層4階建てにつきましては、長寿命化改善事業と判定をいたしまして、事業化を図ってきているということでございます。その長寿命化計画に基づきまして、今回、この49R1棟については、予算計上させていただいたというところでございます。

○三鴨委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 あのね、河崎住宅の現状で報告を受けますとね、これ、空き家戸数をもとにした優先順位で決められたのか、建設年度を順位にして順位を決められたのか、どちらなんですか、これ。

○三鴨委員長 錦織都市整備部長。

○錦織都市整備部長 空き家の戸数ということではなくて、やっぱり建設年度とか、そういった老朽化、そういったところの部分を総合的に判断しまして、こういった優先順位というのを決めているところでございます。

○三鴨委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 僕はね、部長がどういう意味で、そういうふうな簡単なこと言っとるかいな。僕が資料をもらった内容で言うとね、48R1と48R2があるんだよね、これ。いずれも24戸。これの空き家戸数は14戸と11戸なのよ。49R1は24戸で空き家戸数8戸なのよ。どっちが事業がしやすいかといったら、48のほうでしょう。しかも、建設年度から見たら1年古いでしょ。何でこれが後送りになったんですか。

○三鴨委員長 錦織都市整備部長。

○錦織都市整備部長 済みません。今、ちょっと詳細について把握しておりませんので、それにつきましてはちょっと調べまして御報告をさせていただきたいと思います。

○三鴨委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 調べまして報告してもらうのはええだけでも、この決め方が、そういうことも含めて十分に庁内で協議されてないということの意味するんじゃないですか、違うんですか。優先順位とは何をもとにして優先順位を決めるのか、こういうことが、この事業の中には反映されてない、こういうことになるんじゃないかと思うんですよ。

時間がありませんから、次、行きますけどもね。河崎団地のね、全体の状況というのは、どう把握されていますか、都市経済部長。河崎団地の市営住宅、全体をどう把握されていますか。

○三鴨委員長 錦織都市整備部長。

○錦織都市整備部長 河崎住宅の中高層につきましては、40年以上経過しているという形でございます、かなり老朽化もしているということでございまして、長寿命化改善事業の中で、改善事業という形で既存の建物を改修するという形で把握しております。

○三鴨委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 そういう抽象論を聞いているわけじゃないんですよ。河崎団地では全体で何ぼ管理戸数があるんですか。そのうち、何ぼ空き家数があるんですか。入居戸数は何ぼあるんですか。2階建てと4階建てはどのようなふうな区別になるんですか。これをお聞きしてるんですよ。

○三鴨委員長 錦織都市整備部長。

○錦織都市整備部長 中層の耐火4階建てにつきましては、管理戸数が168戸ございまして、空き家戸数につきましては、59戸というところでございまして、簡易耐火2階建てにつきましては、管理戸数が190戸、空き家戸数が60戸ということでございまして、合計いたしますと、管理戸数が358戸、それと、空き家戸数が119戸というところでございまして。

○三鴨委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 だから、そういう状況の中で、この市営住宅という行政財産をどう維持管理をしていき、住民サービスとして提供していくのかと。こういうことの協議がどこまで行

われてるんですか、これをお聞きしてるんですよ。

○三鴨委員長 錦織都市整備部長。

○錦織都市整備部長 済みません。私がですね、その部分をちょっと把握していないというところがございますので、そこら辺について再度確認して御報告させていただきます。

○三鴨委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 優先順位からしてもね、これは僕はもう一遍見直すべきだと思いますよ。やるなら48Rに手をつけるべきだと。入居戸数というものは、48R1は10戸、24戸の中で空き家が14戸ある。48R2は、入居戸数13戸、24戸の中で空き家が11戸ある。49Rは、24戸のうち空き家戸数は8戸しかない、入居戸数は16戸もある。どこに事業を進めていくのに一番段取りが付きやすいかということは、この数字を見ても明らかでしょ。しかも、建設年度は48年は1年遅れとる、1年前だ。経年数字が高いでしょ。そういうことを考えると、49R1をやるということ自身の根拠がない。見直すべきだと思いますよ。しかもね、先ほどのやりとりでね、この49Rの実施設計を29年度にしましたという話があったけど、これは28年度にやっておったんじゃないの。それをなぜしないのって言って、29年度にがんが僕は当時の細川建設部長に文句言ったと思うんだけど、その辺の間違ひがあるんじゃないかと思って聞いておったんで、確認してくださいね。なぜ今、そのようなことを聞くかというとな、あれだけの面積の団地の中にね、空き家がね、空き数が119戸もあるんですよ。358戸の中で。いわゆる34%ぐらいはみんな空き家状態で放置されているんですよ。それをどういうふうにして、まちづくりとして対応していくのかということの検討を一つ一つの棟の改善事業をする前に、基本的な考え方として政策判断すべきじゃないですか。そういうことがなされてないじゃないかと思うんですが、いかがですか。

○三鴨委員長 錦織都市整備部長。

○錦織都市整備部長 今の空き家戸数につきましては、119戸という形で多くあるところではございますけども、これについては、改修工事、そういったところを行う際に仮入居といいますか、そういった形で確保しているというところではございますけども、遠藤議員御指摘の内容につきましても、今後、検討してまいりたいと思っております。

○三鴨委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 検討する前に、僕はね、この予算止めてほしい、執行を。副市長、予算を止めといて、今のような状況で検討してほしい。順序が間違っどる。政策選択の仕方が間違っどる。これに気がつかないという行政がおかしい。だから、本来なら市長にここへ座ってもらって聞いて聞きたかったんだ、俺は。私はそう思いますよ。市長が言っておる、住んで楽しいまちづくり、果たして今、47R1は終わりましたけども、あれが本当に住んで楽しいまちづくりの建物かと。だから、49R1も同じことをやっていいのかということ聞いておるんだよ。しかも、3億近いお金でしょ、3億を超える。それだけの大きな投資をして、残る物はその程度の物しかつくれんのかと。こういうことだって出てくるじゃないですか。だから、僕はこれ、見直すべきだと思いますよ、基本的には。したがって、予算の執行をしない、十分に検討をする。こういうことが私は必要だと思ってるんですよ。しかもね、こういうこと検討されました、戸田議員も言われたけども、階段の幅、階段で足を乗せるとこ、あれ、何て言うんですか、専門用語はわからんけども、靴の長さ、あの階段の幅、全体の廊下としての幅、あれはね、新しい建築住宅の基準からいったらとれないでしょう、あの数字は。そういうことも含めて検討されたんですか、あれ。それからもう

一つ、エレベーターがないということは致命傷ですよ、4階建ては、エレベーターが義務じゃないけど、補助金対象としてつけれるようになったでしょう、あれ、国から。それがないままに3億円の金をかけるのかと、こういうことだって見えるんですよ。中に入ってる人が年とってしまえば、4階に入ってる人が年寄りになる場合だってあるんですよ。エレベーターないけど、あれ、行き来できますか、ということが一つ。それからもう一つはですね、階段の手すりをつけた場合に、今言ったように狭い階段の中で、果たしてそれができるかどうか、こういうことだってあると思うんですよ。そういうものは検討されたんですか、具体的に。

○三鴨委員長 錦織都市整備部長。

○錦織都市整備部長 最初に、階段の幅と、それから踏み幅。それから蹴上げって言いますか、高さのことについてだと思えますけれども、これにつきましては、当然、新設です、そういう住宅につきましては、そういった基準が変わっておりますので、それについては、新設については難しいというところではございますけれども、既存の建物に関しましては、そこまでの絶対にしなければならないというところまでの規定はないというところではございます。エレベーターにつきましては、これにつきましては先ほど言いましたように、新設の場合は当然3階建て以上、こういったものにつきましては、エレベーターを設置するというところではございますけれども、既存の建物については、そこまでの規定がないというところではございます。なおかつ、そういったエレベーターを設置した場合は、事業費も上がるというところではございますので、それにつきましては、何と言いますか、家賃、こういったところにも反映して高くなるというようなどころもございますので、それについては、やっぱり、住民の方にとりましては負担が増えるというようなどころもございますので、そこら辺のところは慎重に考えていく必要があるんじゃないかと考えております。それと、階段の手すりにつきましては、現状でついているというところではございます。

○三鴨委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 改善事業と改築事業を費用対効果を含めて検討されたんですか。

○三鴨委員長 錦織都市整備部長。

○錦織都市整備部長 改修につきましては、当然、今の基準で設計するという形になりますので、事業費がかなり高くなるというところではございますので、基本的にはそういった事業費を勘案いたしまして、改善事業という形でやったというところではございます。

○三鴨委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 資料の提出を、戸田議員のほうからも提出されて、委員長もそれに配慮するという話があったんだけど。その中に、今言った改善事業でやる場合と、それから改築事業でやる場合、その費用対効果を含めて比較してもらおうということの内容の資料も含めて提出してもらいたいし、それから、既存の居住面積。それから、それぞれの設備のサイズ、住宅規模を含めてね、新しい場合の基準、こういうものを比較できるような資料も提出を求めておきたいというふうに思いますね。これ、了解ですか、委員長。

○三鴨委員長 正副委員長と都市経済分科会長、そして当局と相談の上、資料提出を可能であれば求めていきたいと思っております。一応、お聞きはいたしました。

はい、遠藤委員、質問をお願いいたします。

○遠藤委員 どうなんですかねえ、副市長さん。予算の凍結っていうのは、行政にとっては大変痛い話なんだけど、歴史があるんですよ、米子市は。山陰歴史館のときに、当時

の森田市長が、5,000万円の実施設計費を予算して、70周年記念事業で。議会が議決したんですよ、36人の議員が、僕だけ反対した。そのときに、市長さんと後から市民との対話を続ける中で、森田市長はね、これ、断念したんですよ、山陰歴史館の改築、15億円かかる話は。私はね、この問題も同じことだと思うんです。改築事業がいいのか、改善事業がいいのか、コストを比較してみて、どちらが将来にわたって米子市の資産価値として、あるいは住民サービスにとってプラスなのか、この検討をもう一遍やるべきだと。そのために私は凍結されるべきだと思いますよ。いかがですか。

○三鴨委員長 伊澤副市長。

○伊澤副市長 今、凍結についてお尋ねであります。まずは、担当部局のほうがちょっと適確にお答えできなくて申しわけありませんが、私の認識を申し上げますと、先ほども戸田議員の質問のときにお話ししたしましたが、私も同じような疑問を持って、実は現地を訪れたわけでありまして。まず、改築の順序については、これも現地御案内のとおりであります。今年完成いたします47R1棟の横が、この49R1棟だということと、それから48Rについては、私の記憶では一部、これは何か国の経済対策か何かを使ったというふうに聞きましたが、外壁の補修等が行われておりまして、老朽化の進捗ぐあいが改善されているといいましようか、窓枠の取りかえなんかもしてあったと思います。そういった老朽化の実態があつて、優先順位が決まっていると。そういったことの説明を担当から受けて、私はそのときはそれなりに納得をしたということでありまして。それから階段の狭さ、あるいは居室、居室の狭さ、これは、実は私ごとになります。私も県職員時代に職員住宅に住んでおりまして、ほぼ同じ規格のところ、5年間住んで子どももそこでもうけたという経験がございます。したがって、余りすぐれた居室環境でないということや、階段の上り下りが不自由だということは、ある意味、生活実感として承知してはおりますが、一方で、現在、新築するとなると非常に大きな区画、もちろん、新築でも小さい区画をつくれればいいのか、新築でもエレベーターをという話もあるんですけど、問題は新築の場合、現在の居室基準が非常に大区画になっておりまして、2倍とは言いませんけど1.5から1.6倍ぐらいの居住面積になると。それにエレベーターをつけたりすると、先ほども申し上げましたが、家賃がルールどおり計算すると、家賃がぼんと上がってしまうということになります。一方、旧来の47とか49のころの居室は非常に狭いわけではあります。狭いなりに改善すれば低価格の住宅として供給が可能だと。そして、エレベーターをつけると、またそれが家賃にはね返るということがありますので、エレベーターをつけるのであれば、やはり、これは議員のお考えとも合うんだらうと思いますが、24戸棟というようなものではなくて、もっと大きな棟をつけて、そこにエレベーターを1基設置しないとですね、建設コストの問題だけではなくて、家賃コストへのはね返りといったこと、結局は、利用者のニーズ、あるいは最終的には、これは県営住宅でもそういうことがあるというふうに、実は仄聞しておりますが、せつかく改善して新しいうちは結構入るんだけど、段々年数がたっていくと、家賃と見合わないということで、不人気で空き家が出だすといったようなことがあるように聞いております。それは結局、ニーズに合わないということだと思います。そういったようなことをもろもろ勘案して、狭い居室で階段の上り下りも狭いということもありますし、エレベーターもないということでありまして、そういった低価格の住宅のニーズもあるだらうと。そして、狭いなりに狭いところで安い家賃で入りたいというニーズも一定程度あるだらうということで、今回の建築を判断したというのが、これ、私の認識、あるいは市長の認識であります。ただ、それを担当部

局がきちんと説明できませんので、これは今回御指摘をいただいたものを資料としてしたため、改めて御説明申し上げて議会の判断をお願いしたいと、このように考えます。以上であります。

○三鴨委員長 遠藤委員。

○遠藤委員 新しく建てれば家賃が上がるって、傾斜家賃方式だってあるんですよ。三柳県営住宅を改良しました。傾斜家賃をとりました、県が。そしてね、入居者の皆さん、最初は抵抗があるんですよ、既存の家賃から上がることは。だけど、新しく住まい変わったら、人の心も変わったんですよ。大変喜ばれました。そういうところも考えていくべきじゃないですか。ただ、マイナス面だけの強調だけでなく、全体的に見て何が一番ベストなのかと。こういうことの議論がこの事業の中には欠けておるということを指摘しておかなきゃいけん。しかも、2階建てが60戸も空いてるんでしょ。そここのところの敷地をどう使うのか。そうすれば、そここの2階建ての分のところに新しく建てていけば、2階建ての空き屋の対策も解消できるし、そして、いわゆる今のような事業をしなくても、資産価値の高い建物を残していくことができる、こういうことに私はつながると思うんですよ。だから、そういうことも含めて検討されたほうがいいじゃないかと。だから、予算の凍結を求めている。あわせて、再開発事業というものの土台をベースにして、この事業計画を展開していく、こういう視点も大事じゃないですか。それは何かといえば、基盤整備費も含めた補助金対策にも対応できる。こういうことだと思う。これらのことが総合的に検討されて、初めてこの河崎団地の再開発事業というのが、私は動き始めると、このことを申し上げて質問を終わります。

○三鴨委員長 以上で総括質問は終わりました。なお、分科会審査の担当部分につきましては、お手元に配付しております予算決算委員会分科会審査日程表及び審査担当表のとおりいたします。次回の本委員会は、7月30日、午前10時から開催いたします。

以上で本日の予算決算委員会を終了いたします。

午前11時08分 閉会

米子市議会委員会条例第29条第1項の規定により署名する。

予算決算委員長   三 鴨 秀 文